

令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

小浜市立小浜第二中学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成 (2) 協議会の内容

会長 地域代表 同窓会会長 委員 地域代表 教員OB(2)、行政職OB、 民生委員、学識経験者 保護者代表 PTA会長、PTA副会長(2) 学校代表 校長、教頭、教務主任、 生徒指導主事 地域コーディネーター(14名) PTA会長、同窓会長 市役所職員(8) 公民館長(4)	① 開催回数 年3回実施 ② 開催日程 第1回 6月7日(金) 第2回 9月6日(金) ※その他 第3回 1月16日(木) ③ 協議内容 第1回 今年度の学校経営方針の検討、 学校評価計画の検討等 第2回 学校公開日および行事への招待 感想や意見聴取 改善プラン検討 第3回 学校評価を基にした次年度スクール プランの検討
---	---

(3) 協議会における成果と課題

委員が学校の良き理解者として生徒の提案した活動を地域とつなげ、後述の通り各学年の体験活動を充実することができた。また、第3回では次年度につながる意見を多く伺うことができた。委員も多忙なため、新規や継続の依頼が課題である。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- <1年> 赤ちゃん誕生や成長を探究する中で、自他の命の大切さを感じ取り、自己肯定感や思いやりの心を育むとともに、家族や地域等様々なつながりの中で育ってきたことに気づく。
- <2年> 「自分の生き方を考える」というテーマのもと、地域の人々がどのような思いを持って仕事をしているのかを知る。将来自分がどのようにふるさとや社会と関わり生きていきたいのかを考える。
- <3年> 今後のふるさとの社会構造や経済について、グループごとに探究学習を進め、ふるさとの魅力を再発見し、課題を解決しようとする姿勢を育てたり、自分の生き方について考えを深めたりすることを目指す。

(2) 活動の実際

① 赤ちゃん抱っこ体験(1年生)

「いのちの学習」の探究として、1年生徒からの要望を受け、地域コーディネーターに「小浜助産師会うぶごえ」を紹介していただいた。体験当日までに生徒は、助産師さんから教えていただいた注意点を確認し、人形で抱っこ練習するとともに、妊婦体験を行った後に参加して下さるお母さんへの質問を考えたりして準備をすすめた。3日間に毎回6名の母子が来てくださり、6班に分かれ、班長の司会のもと、赤ちゃん抱っこ体験や質疑応答を行った。体験後は母子にお礼の手紙を書いて郵送するとともに、自分の家族に改めて感謝の気持ちを伝えるポストカードの作成を行った。



② 「地域で働く人々の思いに触れ、自分の生き方を考える」(2年生)

生徒から「職場体験」の事前学習の中で、自分たちと年齢の近い方たちから、その仕事を選んだ理由や、現在どのような思いで働いているのか、職場体験に行く自分たちへのアドバイスを貰いたいという希望が挙がった。そこで「二中の先輩に学ぶ講演会」を企画し、7名の方に講演をして頂いた。職場体験を終えた生徒から、さらに店舗や事業所を経営しておられる方に話を聞いてみたいという要望があり、「ふるさと仕事塾」を開催し5名の方に講演をして頂いた。「自分の生き方を考え



る」学習の現段階でのまとめとして、学習リーダーの提案で、「わたしの決意」を啓発録にまとめた。

③「未来を拓く新鯖街道（探究学習）」の成果を学年全体で意見交換（3年生）

実行委員の企画運営のもと、地域活性化に向けて、小浜市の現状を知り、学級のグループごとに講演やアンケート、施設見学や体験学習などを進めてきた。それらの活動を修学旅行の研修地や学校祭、地域の方の前で発表してきた。一方で、その研究の成果について効果的に学年全体で意見交換する必要性を感じ、「わたしたちの未来は明るい」と題し、学年討論会を開いた。生徒の意見や疑問に対して、教師がファシリテーターとなって、討論を活性化させ、ふるさとや自分たちの在り方について考えを深めることができた。



（3）地域コーディネーターの活動概要

- < 1年 > PTA 会長には、小浜助産師会役員を紹介、地域学校協議会委員には、講演会の講師、赤ちゃん抱っこ体験に協力していただく母子の紹介（延べ15名）、妊婦体験グッズの貸し出しの段取りをしていただいた。
- < 2年 > 市役所職員には青年会議所の担当者を紹介して頂き、生徒の要望にあった講師に来て頂くことができた。また、学習の指導助言を頂いた。
- < 3年 > 市役所職員には学習の助言指導をいただいた。公民館長さんには、生徒を公民館に招いて今後の地域づくりについてご示唆を与えてくださり、生徒の取組に助言する立場としてご支援いただいた。

（4）特に工夫した事項

- < 1年 > ・生徒の学習の状況に合わせ、助産師さんの講演会、家族や母親へのインタビューや赤ちゃん抱っこなど、赤ちゃんが生まれ育つことに関して関わりのある多くの方々と関わる機会を設定した。
- < 2年 > ・「先輩に学ぶ講演会」では様々な職種の講師を招き、生徒のニーズに合った講演が聴けるようにした。講演後はそれぞれの講師から教えて頂いたことを各学級で共有し、間接的ではあるが多くの考え方や思いに触れさせた。
- < 3年 > ・討論会では、ホワイトボードを用いて、考えをまとめ、それを示しながら、論述する形式で行ったため、全員参加の討論会が実現した。生徒の考えを書いたホワイトボードは、ビデオカメラで撮影し、スクリーンに投影した。視覚的に伝わりやすくしたため、発表者から離れた位置の生徒も興味深く聞く姿が見られた。

3 成果と課題

- < 1年 > 家族へのインタビューの他に、地元で活躍中の助産師の講演を聴いたり、地元で出産し子育てをしている母親の話を聞いたりして、生徒一人一人が周りに支えられ大切に育てられたと感じることができた。また、実際に赤ちゃんを抱っこして、命のいとおしさを感じることができた。課題は、赤ちゃん抱っこの時間が短く、慌ただしさが感じられた点と、2クラス続けて行くと赤ちゃんが眠くなる時間に重なってしまう点である。母子の負担を考えながら時間設定を考えていきたい。また、「死」についても考える時間がとれなかったことである。「生」と同時に「死」についても考えることで「命の学習」をより深い物にしていけるとよかった。
- < 2年 > 「先輩に学ぶ講演会」では自分たちと年代の近い、そして二中の卒業生である講師と交流することで、生徒が働くことをより身近にまた自分の将来と結びつけて捉え、活動することができたと考える。二中祭での中間発表に講師の方を招待し、学習の成果を見て頂いたり、今後の取り組みについて助言を頂けたりするとよかった。
- < 3年 > グループによって探究学習の深まりが大きく異なったので、地域コーディネーターに入っただけでタイミングを探究学習全体の流れを見通して、もっと効果的に配置することが必要だと感じている。また、教科を越えて、プレゼンテーション力をつけるために、教職員の共通理解を図る時間を確保するべきであると考えている。